

ゆるにこそ、かくとも侍べかりしに、浮世の中には思をどゝめじとおもひ侍しかば、立離なんと  
し侍しほとに、新院○崇の御墓所ををがみ奉らんとて、白嶺と云所に尋參侍りしに、松の一むら  
しげれるほどりにくぎぬきしまはしたり、是ならん御墓にやと、今更かきくらされて物も覺え  
ず、まのあたりみ奉りし事ぞかし、清涼紫宸の間にやすみし給て、百官にいつかれさせ、後宮後房  
のうてなには、三千の翡翠のかんぎしあざやかにて、御まなじりにかゝらんとのみしあはせ給  
ひしづかし、萬機の政をたなごゝろににぎらせ給のみにあらず、春は花の宴を專にし、秋は月の  
前の興盡せず侍き、あに思きや今かゝるべしとは、かけてもはかりきや他國邊土の山中のおぞ  
ろの下にくち給べしとは、貝鐘の聲もせず、法花三昧つどむる僧一人もなき所に、只嶺の松風の  
烈きのみにて、鳥だにもかけらぬありさま、見奉るにすゞろに泪をおとし侍き、始ある物は終あ  
りとは聞侍しか共、いまだかゝる例をば承侍らず、されば思をどむまじきは此世也、一天の君、萬  
乗の主も、じかの如くの苦みを離れまし／＼侍らねば、せつりもしゆだもかはらず、宮もわらや  
も其に果しなき物なれば高位もねがはしきに非、我等も幾度か彼の國主ともなり給ひけんな  
れ共、隔生即忘して、すべて覺侍らず、只行て留り果べき、佛果圓滿の位のみぞゆかしく侍る、と  
もかくにも思ひつゝくるまゝに、泪のもれ出侍しかば、

よしや君昔の玉のゆかともかゝらん後は何にかはせん、と打詠られて侍き、盛衰は今に始  
ぬわざなれ共、殊更心のおぞろかれぬるに侍り、

〔敷原北鯤隱岐國紀行〕隱岐國嶋前海士村、葛田山源福寺、真宗二百石、後鳥羽天皇御堂ノ高一丈九  
尺ニ四方ハ二間ニ二間半、丸木柱、白木造、カツヲ木柿ブキ、高欄キダ橋アリテ、外ハ丸木ノ矢來ナ  
リ、御屋根ハ皆朽果テ、雨露尊容ヲケガシ奉レリ、軒ニハ蓬シノブ心ノマ、ニ生茂リテ、尊體ハ大  
キナル瓶棺ニ納奉リテ、上ニハツヤアルサヨレ石ヲカキ上テ、下民ノ眸ニカヽラセ玉フニゾ、オ